

1. 単元名

「家族の問題から地域社会を考える」

学習指導要領では、現代の諸課題と倫理

(1) 現代の家族とその課題

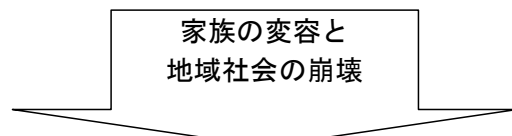
(2) 地域社会の変貌と国民生活

2. 単元のねらい（目標）

家族や地域社会における倫理的課題を自己の課題とつなげて探求する活動を通して、論理的思考や表現力を身につけさせるとともに、現代に生きる人間としての在り方生き方について自覚を深めさせる。

（第 1 次）現代の家族とその課題

1. 日本における家族の現状を知る
2. 現代における家族の形態や役割の変化に気づく
3. 歴史的にみた家族の変化 相続を切り口に考える
4. 法的なものの考え方や多様な価値観について、幸福・正義・公正などを用いて考える。



（第 2 次）地域社会の変貌と国民生活

1. 地域社会の役割を知る
2. 地域の現状や課題を知る
3. 地域の再生や持続可能な社会のあり方を考える
4. 地域に生きる者としての在り方生き方を自覚する
5. 地域の問題にあわせて、日本の食料・農業問題も考える機会とする

3. 教材観・問題意識

140801 法教育セミナー主催の東大・大村先生の講義（相続）に参加して

（第 1 次）家族をめぐる

社会学者の山田昌弘は、家族を、「近代社会における心理的拠り所、具体的にいえば、自分を心配し、必要としてくれる存在」としている。（『日本の論点 2011』文藝春秋社）また、内閣府の国民生活白書（H19 版）では、家族を「団らん」と答えている割合が 66.5%であった。しかし核家族化や家族のあり様の変容によって、その役割は大きく変わっている。また、現代社会では高校生を取り巻く家族の状況も、一様ではなくなっている。DVやネグレクトに苦しむ子どもの事件も多い。塾通いなどで夕食を共にしないことなども気にかかる。

今次では、家族の変化を、現代社会における変化の側面と、戦前と戦後の家制度の解体 の二面からとらえたい。今回は「相続」を切り口に地方の問題を考えるという構成なので、後者の家制度の解体と農村の存続を扱う。

（第 2 次）地域社会、特に地方をめぐる

人々の暮らしや働き方が大きく変容し、地域社会の変化も著しい。（1）でみたような家族の形や役割の変化、労働形態の変化、外国人との共生、福祉や社会保障の在り方などが地域社会の問題と密接に結びついている。グローバル化は否応なく進む。また地域社会の高齢化にともなって助け合いを中心とした地域共同体の崩壊があげられる。人々の暮らしや働き方、子育てや介護などを支える場と

して、地域の役割は大きいはずであるが、最近では各種統計によっても、限界集落や消滅自治体の問題が示されている。日本社会の将来を心配させる大きな課題である。政府は「地域創生」を打ち出し、地域の立て直しの施策をはじめめる。

しかし、都市部に住む高校生にとっては、「他人事」のように思えるのではないか。そこで都市部と農山村を結びつける一つの形・方策として、「相続」を切り口にした。相続問題を契機に、地域社会や農山村が持続可能な社会として存続することのできる形や方法を考えさせたい。

それは同時に、都市部に住む自分たちのまちづくり・地域づくりの取り組みとなり、地域における自らの生き方を考える機会になるのではないだろうか。

なお、法教育の視点から、家族や家制度、相続を考える際には、戦後民法（相続）法のめざす理念への理解、法の適切さを考える視点＝法的安定性、法の役割の限界などについても触れたい。

4. 単元の構成と学習計画（3時間扱い）

第1次	1時（本時）	1.家族の役割と現状 その変容
第2次	2時	2.家族の変化が地域社会に与える影響 3.地域社会の問題と地域再生の取り組み
	3時	4.地域再生の在り方について考える（討論または発表）

5. 単元（題材）の評価規準

	A 関心・意欲・態度	B 思考・判断・表現	C 技能	D 知識・理解
第1次 家族	家族の役割について関心を持つ 家族のありようや家族の形や役割の変化に関心を持つ	家族の形や役割の変化が、社会の変化を背景にしていることを考察できる 家族の望ましいあり方について考えを深める 男女の本質的平等について理解し、将来の生き方について考える	家族の変化についてのさまざまな統計を読み解き、説明することができる	家族の役割について理解できる 家族の変化や役割の変化について理解できる 男女の本質的平等について理解する
第2次 地域社会	地域社会の役割について関心を持つ 地域社会の問題点について関心を持つようになる 地域再生について関心を持つようになる 地域に生きる者としての在り方生き方を自覚する	地域社会の役割について考えることができる 暮らしや家族の変容が地域社会の変化に結びついていることについて考察できる 地域再生のためにはどのような視点が必要かに関して、住民の視点からのまちづくりや地域社会の人間関係などについて考察することができる	地域社会の変化を示すさまざまな情報を見つけて読み解き、説明することができる	地域社会の役割について知る 地域社会の変化について理解し、さまざまな地域で行なわれている地域再生の取り組みについて知る

6. 本時の学習指導計画

(1) 教科書・資料集

教科書： 清水書院 302『高等学校 新倫理』P196-201

資料集： 第一学習社『最新倫理資料集』P258-260

(2) 本時のねらい（4時間中の1時間目）

1. 日本における家族の現状を知る
2. 現代における家族の形態や役割の変化に気づく
3. 歴史的にみた家族の変化を、相続を切り口に考える
4. 相続の問題から、地域社会の変化に気づく
5. 討論の活動を通して、自己の意見を述べ他者の意見を聞くことで、多様なものの考え方に気づく。

(3) 評価の観点

A 関心・意欲・態度

家族のありようや家族の形や役割の変化に関心を持つ

B 思考・判断・表現

家族の形や役割の変化が、社会の変化を背景にしていることを考察できる

C 技能

家族の変化についてのさまざまな統計を読み解き、説明することができる

D 知識・理解

家族の変化や役割の変化について理解できる

家族の変化が、相続を通して地域の変化に影響を与えていることに気づく

* 言語能力の育成について

家族の変化が、社会の変化を背景にしていること、またそれが社会を変えていく要因になっていることなどについて、さまざまな資料やデータを利用して、説明できるようになる

(4) 本時の展開

	学 習 活 動	留 意 事 項 ・	評価
導 入	1. 現代の家族 「日本を代表する家族」を材料に考える 野原家（しんちゃん）と磯野家（サザエさん） 問：二つの家族の大きな違いはどこ？	ビデオ 野原家と磯野家の家族を囲ってみよう	A
展 開 1	2. 核家族と拡大家族 3. 今、核家族が増えている ①データ ②そのために起きていること 考えさせたい ・家族機能の外部化 育児・食事など	説明をする ・データから見えるもの ・現代では世帯や家族の形態が変わっていることに少しも触れる 単身、一人親、シェアハウス、LGBT家族 ・少子化や女性の社会進出は触れるだけでこの学習では深入りしない。	B
展 開 1	4. 相続から考える家族の変化 ワークショップ（班討論）の手法 「田舎のおじいちゃんが亡くなった」	相続についての既習（中/家庭）事項の復習 民法	

	①相続についての法律のルール（民法） 1.各班で確認・発表 2.戦前の相続 設問旧民法との違いは何ですか？ なぜ変わったのですか？ 生徒の意見（予想） 旧：家の制度，長男優先，跡取り 今：平等 古い家制度や封建制度の否定	直系男子が戸主権を相続（家督長子相続） ＝家系の存続が第1，嫁の仕事 今→新しい相続法のねらい ・個人の尊厳と両性の本質的平等 ・封建的制度の廃止 ・但，深入りしない	B
展開2	②相続と現代の家庭・地域社会 発問1 「相続の結果少し困ったことも起こります。どのような不都合が起こるのでしょうか」 生徒の意見（予想） つるの世話・介護，田畑の耕作，家の手入れ，毎日のお買い物， 発問2 「では，海野一家はこの問題をどのように解決したらいいのでしょうか。」 生徒の意見（予想） ・みんなで交代で支える ・誰かひとり（せまし）に全財産を相続させる。 つるさんの世話や農業を継ぐ人 ・田舎の土地を売って，おばあちゃんを引き取る ・相続を放棄する	各班で討議・発表 各班で考える ・それぞれに起こる問題を見つける 新相続法の狙いは何だったかの再確認＝個人尊厳と両性の平等 幸福・正義・公正	B
まとめ	5. 相続問題から地方で起こっていることを想像する ・海野家がどのような相続の方法でまともれば，海野家やこの地域は持続可能性があるのだろうか。 ・次回は，実際に起こっている地域の課題を紹介して，対策を考えてみたい。	（次回） 現実問題としての相続（話し合い） 相続と地域の持続可能性 ・地域やまちづくり 農業法人やNPOの活動	

参考 内閣府『国民生活白書 平成19年版』

「家族という磁場」 鷲田清一『＜ひと＞の現象学』筑摩書房 2013.3 所収

(第2次) 地域社会の変貌と国民生活

- 1.地域の現状や課題を知る。
- 2.地域の再生や持続可能な社会のあり方を考える。
- 3.地域の問題にあわせて、食料・農業問題も考える機会とする。

	学　習　活　動	注　意　事　項
導 入	1．地方で起きていること ・地域社会の崩壊がいわれていること	・関係のない遠い地方の話ではなく、身近な問題として考えたいこと
展 開 1	2．相続と現代の地域社会 ロールプレイによるアクター分析 各班で役割を決めて、 役割毎に新しい班に集まる（問題の検討） 旧班に戻って、報告・討論 ・検討→討論（ロールプレイ） ・相続を受ける伯父のせましさん ・相続を放棄する家族のひとり ・つるおばあちゃん ・秋田の隣の家の人 ・村長さん 村の振興 ・農協の職員 ・地域の農業を発展させたい若手農業経営者 ・発表	 ・さまざまな人の立場から相続と地域の問題を考える *googleで相続と限界集落で検索する約28,300件がヒット(140802閲覧) ＊田わけ
	3．限界集落や地方消滅 4．地方取り組んでいること ・隠岐町での取り組みを中心に 5．高校生の取り組み	新聞記事や写真 （限界集落・消滅自治体） いくつかの例を紹介する いくつかの例を紹介する （『地域を変える高校生』）
	6．都市部で起こっていること ・高齢化社会の進展 都市の過疎：買い物困難，交通過疎	・地方の問題は、実は明日の都市部の問題であることに気づく

参考文献

消滅可能自治体 日本創成会議の提言 2014.05.08

増田寛也他「2040年、地方消滅『極点社会』が到来する」中央公論 13年12月号

国交省「国土形成計画策定のための集落の状況に関する現況把握調査」(国交省 HP) 2007.08

宮下与兵衛編『地域を変える高校生』かもがわ出版 2014 (特に第3・4時)

自治体問題研究所『小さい自治体 輝く自治』自治体研究社 2014.5

増田寛也『地方消滅』中公新書 2014.10